

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 10日現在

機関番号：32663
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22720184
 研究課題名（和文） 日本ミッション(神奈川・横浜, 長崎)における日本語研究資料の基礎的研究
 研究課題名（英文） Fundamental Research of Japanese Language Research Materials at Christian Missionary Organizations in Japan (Kanagawa / Yokohama, and Nagasaki)
 研究代表者
 木村 一 (KIMURA HAJIME)
 東洋大学・文学部・准教授
 研究者番号：90318303

研究成果の概要（和文）：幕末に来日した宣教師（S. R. ブラウン, J. C. ヘボン, C. M. ウィリアムズ, J. リギンズ, G. フルベッキ等）による日本語研究を日本ミッションという大きな枠組みからとらえなおすことを目的とする。来日極初期の宣教師の相互の連動と連環という視点に立ち、日本ミッションの手による日本語研究資料（辞書、会話書、文法書）を中心に据えて、継承と伝播について調査・研究を行った。

研究成果の概要（英文）：The study examines Japanese language research conducted by missionaries who came to Japan at the end of the Edo period and considers this research from a new perspective, that is, in terms of a large framework of Christian missionary organizations. Focusing on the Japanese language research materials created by Christian missionary organizations in Japan from the perspective of the interrelationships of missionaries who came to Japan during the very early period, the study investigates the relationship between the Japanese language research materials and Christian missionary organizations as well as the development of Japanese language research.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2011年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2012年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：辞書、文法書、会話書、和英語林集成、J. C. ヘボン、ローマ字、宣教師、近世中国語・唐話・白話

1. 研究開始当初の背景

日本ミッションの構築に際し、もっとも重要な使命の一つに日本語研究があった。伝道を目指す際に、その礎となる日本語研究は欠かすことのできないものであったためである。

幕末に来日した宣教師による日本語研究

資料に対する先行研究は数多く存在し、個別的な人物、書物などを題材とした先行研究は豊富である。しかし、来日極初期のきわめて不安定な状態の中、教派を超えた情報ネットワークを駆使して行われた日本ミッションの日本語研究の相互の関連性（例えば、神奈川・横浜、長崎、さらには中国と日本といっ

た空間的な相違), また時代的な連続性についてはあまり目が向けられていなかった。そこで, 本研究は「2. 研究の目的」に記すような意図のもと進めることを企図した。

2. 研究の目的

日本語研究を日本ミッションという大きな枠組みからとらえなおすことを目的とする。来日極初期の宣教師の相互の連動と連環という視点に立ち, 日本ミッションの手による日本語研究資料を中心に据えて, 継承と伝播について調査・研究を行う。特に日本語研究のための草稿・手控え・ノートともいべき資料は多く残され, その後の刊行物や翻訳聖書など種々の基底をなすが, 未調査のものが多い。本研究によって, 未確認・未報告の資料に基づき当時の日本語についてきわめて多くを知りうる手立てとなると考える。また, 宣教師は当時の中日の辞書, 会話書, 文法書, 学習書を利用しているが, その実態を具体的に明らかにする。

- ・ 近世中国語とも称することのできる漢語や, ローマ字綴りとといった, それぞれの初期段階での連動と連環
- ・ 日本ミッションによる日本語研究資料の具体的な調査
 - ▶ C. M. ウィリアムズ, J. リギンズ, G. フルベッキ, S. R. ブラウンの日本語研究資料
 - ▶ J. C. ヘボンの『和英語林集成』草稿(以下, 「手稿」とする)の継続的な調査
- ・ 中日の辞書, 会話書, 文法書, 学習書の利用
- ・ 先行するキリシタンや江戸期の日本語研究資料の継承と発展

明治期の日本語の基底という面も存する日本ミッションによる日本語研究資料の調査・研究によって, 新たな領域を開拓できると考える。

3. 研究の方法

日本ミッションにおける日本語研究資料について, 刊行物の前段階の資料(草稿・手控え・ノートなど)を実見し, 調査・整理する。明治期の日本語に大きな影響を与える日本語研究資料であるために, その状況を連動と連環という視点に立ち考察を加え, 明らかにする。資料の多くは洋紙(酸性紙)であるために, コンディションのよくないものも多く, 調査とデータ整理が急務である。可能な限り撮影のみならずデータベース化を行い, 当時の語彙・語法の資料とする。

また, 様々な比較を行う際に, 既存の索引を用いるのであるが, 現在, 江戸期の辞書類

の大型データベースは存在していない。そこで, 本代表者が研究分担者・協力者(2002-2005年度)として携わった38,105語を収録する森楓齋著『雅俗幼学新書』(1855)や, その後入力を行った唐話辞書類のデータベースを用いての比較対照を行い, 立体的な方法をとるように心掛けた。

4. 研究成果

例えば, 宣教師の参照資料については, それぞれの‘Preface’などに様々なものが挙げられているが, 実際には文例の下敷きとして J. リギンズが『南山俗語考』(1812頃)(常盤(2004)), 漢字表記について J. C. ヘボンが『雅俗幼学新書』(1855)(木村(2005))を参照したように, C. M. ウィリアムズも『万代節用集』(1855)を切り貼りして使用し, W. A. P. マーティンによる漢字学習書(1863)を用いている(以上, 木村(2009))。宣教師の用いる資料の傾向としては, 刊行が比較的新しく, 内容が簡潔・明瞭であり, 楷書などによって判読しやすいものである。また, フルベッキは既存の文法書の翻訳を行い(高谷(1978)), ブラウンは J. レッグによる慣用句集(1841)を基にしている(高谷(1965))。

さらにこられることを以下の(1)~(9)に分類して進めた。

(1) 『和英語林集成』について, 依拠関係が指摘されている『日葡辞書』(16043-1604)と『日仏辞書』(1862-1868)からの援用について調査を行った。先行研究は, 『和英語林集成』「初版」(1867)を用いたものであるが, その原稿段階ともいえる「手稿」を用いたことで異なりがある。『日葡辞書』の影響はやはり時代的な問題はありながらも, 日本語学的に確認できるものであるとの結論に至ったが, 継続調査が必要である。

(2) 辞書の見出し語の最初の文字の比率(語頭文字別分布)を探るため, 『和英語林集成』「手稿」と「初版」, 『雅俗幼学新書』(1855), 『言海』(1891), 『日本国語大辞典』(初版・1972)を用いて調査を行った。それぞれの収録語数や見出し語の性格は異なるものの, その比率は, 行・段のみならず, 個々の語頭文字レベルでもきわめて類似した分布を示した。

(3) 周縁を埋めるため日本語と近世中国語の対訳辞書と言える『訳通類略』(1713-14)と同書の明治年間本の異同状況を明示したデータベース(約5,100語・約5,500語)を作成した。その上で, 収録語数, 収録語彙の特徴, 参照資料などについてまとめた。

(4) 宣教師による日本語研究資料における活用語の表示方法について、調査を進めた。特に『日葡辞書』(1603-1604)にみられる「語根、現在形、過去形」(「連用形、連体(終止)形、連用形+た」とも)の表示方法は19世紀の日本語研究資料にもまみ見受けられる。これらの表示方法を動詞・形容詞・形容動詞・助動詞の活用語にそれぞれ分類・整理し、考察を加えた。「語根、現在形、過去形」(3形標出方式)といった表示方法は『和英語林集成』においては、版を重ねる上で助動詞を除いた動詞部分による2形標出形式に整理統合され、集約されていく。

(5) 大妻女子大学において、「19世紀 日本ミッションにおける日本語研究資料の草稿について」(第2回 草稿・テキスト研究所研究集会(「19世紀における〈知〉の移動と文化変容」))と題して、どのように日本語研究資料群が作成されていくのか、その背景にはどのような類書を参考としたのかなど、さまざまな日本語研究資料を挙げながら、個々の特徴、また全体にわたる共通性といったものをあつかった。

〈来日10年内の日本ミッションによる著作〉

| | 神奈川・横浜 | 長崎 |
|-----|-----------------------------------|--|
| 会話書 | <i>Colloquial Japanese</i> (1863) | <i>Familiar Phrases in English and Romanized Japanese</i> (1860) |
| 文法書 | (『和英語林集成』再版(1872)) | (G. フルベッキによる?) ※ 未刊行 |
| 辞書 | 『和英語林集成』初版(1867) | (C. M. ウィリアムズによる手稿) ※ 未刊行 |

(6) 『和英語林集成』初版には横浜で発行されたものと、ロンドンで発行されたものの二種類がある。それぞれの相違点について調査を行い、当時の目録なども資料として、実態を整理した。

(7) 対訳辞書における日本語の意味記述の方法について、句形式のものから語による示し方への変化の過程を「魔女」ということばを題材として、整理を行った。その結果、外国人による資料においては、当初から語によって示しており、外国語をどのように日本語に置き換えるのかという語対語の関係に留意していることが確認できた。加えて、漢和辞書と国語辞書の接点とその展開について明治期から昭和期にかけての様相をまとめた。

(8) 『和英語林集成』初版(ロンドン版)の複製の解題執筆の機会を得た。その中で、日本ミッションにおける位置づけ、また成立過程とその展開について言及した。

(9) 本研究課題の一環であるデータベースの作成が完了した。次年度、翻字と索引というかたちでの公開を目指して進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 木村一, 句から語へー「魔ヲ使フ女」から「魔女」への移行を一例としてー, 『超越する異界』 勉誠出版, 査読無, 2013, pp. 217-238
- ② 木村一, 『和英語林集成』の二つの初版ー横浜版とロンドン版ー, 「明治学院大学キリスト教研究所紀要」, 査読無, 第45号, 2012, pp. 85-105
- ③ 木村一, 漢和辞典と国語辞典の接点ー両辞典の展開を通してー, 「日本語学」, 査読無, 10月号, 2012, pp. 44-54
- ④ 木村一, ローマ字による活用語の表示方法, 『近代語研究』 武蔵野書院, 査読無, 第16集, 2012, pp. 33-48
- ⑤ 木村一, 『訳通類略』についてー対訳辞書にみることばの消長ー, 『言語変化の分析と理論』 おうふう, 査読無, 2011, pp. 362-381
- ⑥ 木村一, 『日葡辞書』と『日仏辞書』のへボンの参看の可能性をめぐって, 『近代語研究』 武蔵野書院, 査読無, 第15集, 2010, pp. 3-24
- ⑦ 木村一, 語頭文字別分布ー幕末期の辞書との比較を通してー, 「東洋通信」, 査読無, 第47巻第7号, 2010, pp. 17-30

〔学会発表〕(計5件)

- ① 木村一, ローマ字から見た日本語, 「言語と文化との間」, 2012年9月6日, 広州外語外易大学(中国),
- ② 木村一, 19世紀 日本ミッションにおける日本語研究資料の草稿について, 第2回 草稿・テキスト研究所 研究集会, 草稿・テキスト研究所, 2011年12月19日, 大妻女子大学
- ③ 木村一, 19世紀の日本語研究資料におけるローマ字の扱い, 「日本語史研究の現状と展望(日本語史研究的現状与展望)」, 2011年9月10日, 黒竜江大学(中国)
- ④ 木村一, ふたつの訳通類略, 中部日本・日本語学研究会 第57回, 2010年10月2日, 刈谷産業振興センター

- ⑤ 木村一, 現代と1980年代との日本語の異同－謙讓語の丁寧語化－, 「日本語研究の理論と実践」, 2010年9月6日, 山西大学(中国),

〔図書〕(計3件)

- ① 木村一, 明治学院発行・雄松堂刊行, 『美國平文先生編譯『和英語林集成』1867ロンドン版 復刻版』解題, 2013, pp. 1-13
② 木村一, 朝倉書店, 『語と語彙(日本語ライブラリー)』, 2012, pp. 134-175
③ 木村一, 朝倉書店, 『日本語概説(日本語ライブラリー)』, 2010, 計26頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 一 (KIMURA HAJIME)
東洋大学・文学部・准教授
研究者番号: 90318303

(2) 研究分担者 (0)

(3) 連携研究者 (0)